令和7年 地方分権改革に関する提案募集 提案事項

外務省(内閣府と関係府省との間で調整を行う提案)

管理番号	97	重点募集テーマ	○(デジタル化(4))	提案区分	B 地方に対する規制緩和
				提案分野	11_総務

提案事項(事項名)

地方公務員の海外渡航に伴う渡航依頼事務に係る都道府県経由事務の廃止

提案団体

愛媛県、東京都、広島県、新居浜市、西条市、大洲市、全国知事会

制度の所管・関係府省

総務省、外務省

求める措置の具体的内容

地方公務員の海外渡航に伴う渡航通知依頼手続き事務処理要領では、政令市を除く市区町村の地方公務員が海外渡航を行う場合、都道府県を経由して外務省へ必要書類を提出することが求められているが、一斉調査システムや LoGo フォームなどを活用し、市区町村から直接提出できるよう見直しを求める。

具体的な支障事例

外務省への提出は、都道府県知事名又は政令指定都市長名で行うこととされている。政令市以外の市区町村から依頼があった場合にも、都道府県知事名の依頼文書を作成する必要があり、事務負担が生じている。また、海外関係機関等との調整の関係上、渡航内容の確定が直前となることが多く、外務省への提出期限が過ぎていることもあり、急遽対応しなければならない処理が増えている。
なお、市区町村の依頼内容については、都道府県経由時に内容確認を行う際、明白な誤りがあれば指摘を行うが、ほぼ形式的なチェックに留まり、市区町村の海外渡航予定についても、特段都道府県において必要な情報と認識しておらず、都道府県を経由する必要はないものである。

地域住民や事業者等の具体的な意見・要望、支障事例等

—

制度改正による効果(提案の実現による住民の利便性の向上・行政の効率化等)

市区町村から直接国へ提出することにより、都道府県経由に係る時間が削減され、国への提出がより速やかになるとともに、都道府県の事務負担が軽減されることが期待される。

根拠法令等

地方公務員の海外渡航に伴う渡航通知依頼手続き事務処理要領

追加共同提案団体及び当該団体等から示された支障事例(主なもの)

宮城県、燕市、佐世保市、沖縄県

○市町村から期限間際の提出が増えており、急遽対応することが見られる。

令和7年 地方分権改革に関する提案募集 提案事項

外務省(内閣府と関係府省との間で調整を行う提案)

管理番号	265	重点募集テーマ	×	提案区分	B 地方に対する規制緩和
				提案分野	12_その他

提案事項(事項名)

語学指導等を行う外国青年招致事業の参加者に中途退職が生じた場合の迅速な補充措置

提案団体

大分県、九州地方知事会

制度の所管・関係府省

総務省、外務省、文部科学省

求める措置の具体的内容

語学指導等を行う外国青年招致事業(JETプログラム)において、参加者の中途退職が生じた場合、欠員が生じた任用団体に対して迅速な補充措置を行うこと。

具体的な支障事例

事業参加者が配置後に中途退職した場合、可能な限り通年で補充対応できるようにするといった運用改善がされているものの、実際には補欠者がいないなどの理由により、補充されないケースが生じている。後任者が速やかに補充されない場合、学校の教育計画や授業プログラムを大幅に変更するなど、子どもたちの外国語や文化の学習機会が損なわれており、自治体においても国際交流イベント等の円滑な運営に支障をきたしている。

地域住民や事業者等の具体的な意見・要望、支障事例等

—

制度改正による効果(提案の実現による住民の利便性の向上・行政の効率化等)

中途退職が生じた場合や補欠者がいない場合であっても、早期来日が可能となるような調整や配置対応といった補充措置を講じることにより、任用団体における教育機会の確保につながる。

根拠法令等

語学指導等を行う外国青年招致事業任用団体マニュアル、「平成24年度JETプログラムの運用改善について(通知)」(平成23年10月20日総行国第314号、外広文人合第1028号及び23初国教第171号)、「平成25年度語学指導等を行う外国青年招致事業(JETプログラム)の運用改善等について(通知)」(平成24年9月21日、総行国第366号、外報文人合第1039号及び24初国教第109号)

追加共同提案団体及び当該団体等から示された支障事例(主なもの)

宮城県、栃木県、大分市、沖縄県

○JETプログラムによって招致した国際交流員を県内学校に派遣しているが、学校によっては半年以上先の派遣授業が決まっているため、中途退職による補充者がいない場合、代替授業を準備する必要があり、学校・自

治体の双方に負担が生じる。

令和7年 地方分権改革に関する提案募集 提案事項

外務省(内閣府と関係府省との間で調整を行う提案)

管理番号	266	重点募集テーマ	×	提案区分	B 地方に対する規制緩和
				提案分野	12_その他

提案事項(事項名)

語学指導等を行う外国青年招致事業における4月来日者のあっせん通知及び連絡解禁時期の早期化

提案団体

大分県、九州地方知事会

制度の所管・関係府省

総務省、外務省、文部科学省

求める措置の具体的内容

語学指導等を行う外国青年招致事業(JET プログラム)における、配置要望調査、募集開始、選考、その後の各通知、参加者への連絡開始日の早期化等、全体的なスケジュールの見直しを行うこと。

具体的な支障事例

4月来日者については、あっせん通知(2月下旬)から参加者への連絡解禁(3月上旬)、参加者の来日(4月上旬)までの期間が非常に短いことから、4月上旬の受入れに苦慮している。

地域住民や事業者等の具体的な意見・要望、支障事例等

—

制度改正による効果(提案の実現による住民の利便性の向上・行政の効率化等)

任用団体への通知から任用行為までの期間を十分に設けることで、参加者の受け入れ準備をより円滑に行うことが可能となり、参加者への要望確認や連絡調整等より丁寧な事前対応を行うことで、受入に万全を期することができる。さらに、住宅の確保に係る十分な期間が確保でき、職員の事務負担軽減が期待される。

根拠法令等

語学指導等を行う外国青年招致事業任用団体マニュアル、語学指導等を行う外国青年招致事業(JET プログラム)に係る4月来日者のあっせんについて(通知)

追加共同提案団体及び当該団体等から示された支障事例(主なもの)

宮城県、栃木県、沖縄県

○当県では、JET プログラム参加者の住居や生活用品等について、前任者から引き継ぐことも多く、連絡解禁日が遅いことで引継ぎの意向確認ができず、前任者の退去準備にも支障をきたしている。(状況によっては、物品の処分も必要になる。)
また、3月～4月は新年度の切り替えタイミングでもあり、担当者の引継ぎ準備と来日準備が重なり、十分な受け入れ準備ができない可能性もある。

○新規来日 JET 参加者の住宅手配等の準備期間が短く対応に苦慮しているため、あっせん通知をより早くしていただければ、住宅の確保に係る十分な期間が確保でき、職員の事務負担軽減が期待されると考えられる。